

F7m上の不動化ペプシン

Cat. No. NATE-1766

Lot. No. (See product label)

はじめに

説明

ペプシンはエンドペプチダーゼです。ペプシンは、芳香族およびジカルボン酸L-アミノ酸残基の隣接部位で、特にフェニルアラニンとロイシンに作用して好ましく、バリン、アラニン、グリシンの隣接部位ではないタンパク質やペプチドを加水分解します。ペプシンはpH 6.0以上では安定ではありません。F7m: 1.0 mgのペプシン (16 m Anson) がポリビニルに固定化されています。CR-カラム (1 m Anson単位は、pH 2で37.5°Cの中性ヘモグロビンから放出されるチロシンとして計算されたフォリン陽性アミノ酸の1μmolに相当します。このmAnson単位は約180 D-A280単位に相当します)。Nr. 40 保存バッファー: 50 mMグリシン、10% (v/v)グリセロール、pH 4.0 Nr. 33 反洗バッファー: 20 mM酢酸ナトリウム、pH 4.7 Nr. 34 洗淨バッファー: 20 mM酢酸ナトリウム、1.0 M NaCl、pH 4.7

別名

EC 3. 4. 23. 1; ペプシン; 乳酸ペプシン; ペプシンフォルティオール; 胃底ペプシン; ペプシン乳酸エリクサー; P I; 乳酸ペプシンエリクサー; P II; ペプシンR; ペプシンD; ペプシンA

製品情報

由来

豚の粘膜

EC番号

EC 3. 4. 23. 1

プロトコル

1. 配送されたバッファーを (各2 ml以上) 無菌の二重蒸留水で希釈します。1回のアプリケーションには以下が必要です: 0.25 ml 10x 反洗バッファーと 2.25 ml 二重蒸留水 0.4 ml 5x 洗淨バッファーと 1.6 ml 二重蒸留水 0.2 ml 10x 保存バッファーと 0.2 ml 100% グリセロールと 1.6 ml 二重蒸留水 基質は反洗バッファーに入れておく必要があります。2. CRカラムを2 mlの反洗バッファーで平衡化します。2 mlの反洗バッファーをシリンジに入れ、重力で反洗バッファーをカラムの上部フィルターまで流します。バッファーの流れが非常に遅い場合は、シリンジで圧力をかけてください。3. 反洗バッファー中の基質溶液をロードします。小さな体積 (< 80 μl): CRカラムをベンチトップ遠心分離機で5秒間回転させます (2000 rpmで十分です)。基質溶液がマトリックス材料に入るようにします。大きな体積: 基質溶液をカラムを通して流します。流量: 最大80 μl/分 基質をカラム内に約1分間室温で保持します。基質を再度カラムに適用するか、長時間インキュベートすることで、より高い回転率が得られます。4. 製品溶液を溶出します。小さな体積 (< 80 μl): 500 μlの反洗バッファーで製品を溶出します。大きな体積: 基質をカラムを通して流し、残りの製品溶液を500 μlの反洗バッファーで溶出します。カラムが乾燥しても問題ありません。5. カラムを2 mlの洗淨バッファーで洗淨します。6. カラムを2 mlの保存バッファーで平衡化します。カラムを4°Cで保管します。CRカラムを凍結させないでください!

保管・発送情報

保存方法

4 °C